(財)北九州市芸術文化振興財団
委託調査

北九州芸術劇場
事業評価調査
［報告書］

4

2007年11月
ニッセイ基礎研究所

北九州芸術劇場
事業評価調査

［本編］

第1章 2006年度事業の概要と実績

本章ではまず、事業評価の基本となる北九州芸術劇場の事業の概要、入場者数や稼働率、収支状況など、2006年度の事業の実績について整理した。

1．事業の実績

まず、北九州芸術劇場の事業の基本方針と06年度の事業概要は次のとおりである。

(1) 事業の基本方針

北九州芸術劇場では、「創る」「育つ」「観る」をキーワードにした事業展開が行われている。それぞれの目的や考え方、事業の内容は次のとおりである。

- **[創る]**：北九州芸術劇場のオリジナル・プロデュースの演劇作品を創ることにより、“ものづくりの街”北九州市をアピールし地域の活性化を促していく。
- **[育つ]**：アーティストを小・中学校等に派遣するアウトリーチ活動や劇場サポーター組織を通じてのヒューマンネットワーク作り等により、舞台芸術の手法を用いた人材育成・教育普及事業を行い、地域を育てながら地域とともに育っていく劇場を目指す。
- **[観る]**：見る楽しみを知ってもらうため、舞台芸術の先進都市からエンターテイメント性や芸術性の高い作品を招き、市民に様々な公演を提供する。

(2) 事業の内容と実績、入場者数

こうした3つのコンセプトに基づき、06年度には次のような事業が実施された。

①創る：創造事業

- まず、「創る」に対応した創造事業では、「わたしの青い鳥」2006、ダンスラボ2006「BARBABAR」、「錦鯉」、「冒険王07」、「地獄八景・・浮世百景」、「リーディングセッション」、「シアターラボ2007」の7本の事業が実施された。
- 06年度は、「錦鯉」、「地獄八景・・浮世百景」、「冒険王07」の全国展開型のプロデュース作品が創られ、「錦鯉」は大阪、東京、名古屋、松本で、「地獄八景・・浮世百景」は東京、大阪で、「冒険王07」は長崎で公演が行われた。06年度の創造事業は、公演数は61回、入場者数は約2万7,000人と、05年度に比べて大きく増加している。また、平均入場率も93%（05年度は77%）と高くなっている。

図表1-1 事業実績の概要（2003年度～2006年度）

	2003年度			2004年度			2005年度			2006年度		
	事業数	公演数・回数	入場者・参加者数	事業数	公演数・回数	入場者・参加者数	事業数	公演数・回数	入場者・参加者数	事業数	公演数・回数	入場者・参加者数
創造事業	3	35	13,350	4	15	3,292	6	45	9,332	7	61	27,107
公演事業	15	35	22,079	23	46	26,361	24	42	21,294	18	45	29,813
共催・提携事業	5	8	7,382	6	15	6,211	6	13	6,642	7	16	7,259
ｵｰﾌﾟﾆﾝｸﾞ企画	2	2	1,592	—	—	—	—	—	—	—	—	—
演劇祭	2	9	987	2	9	1,231	2	7	2,779	2	8	1,110
公演事業計	27	89	45,390	35	85	37,095	38	107	40,047	34	130	65,289

	総席数	入場率	総席数	入場率	総席数	入場率	総席数	入場率
公演事業	50,756	89.4%	41,808	88.7%	48,575	82.4%	70,065	92.7%

学芸事業	—	219	2,404	—	320	4,734	—	297	6,327	—	291	6,758
総合計	27	308	47,794	35	405	41,829	38	404	46,374	34	421	72,047

- また、「わたしの青い鳥」や「ダンスラボ」、「リーディングセッション」、「シアターラボ」といった参加型・育成型の事業も行われ、創造事業は幅広い事業構成となっている。

②育つ：学芸事業

- 「育つ」に対応した学芸事業では、「表現教育推進事業」、「学校出前演劇ワークショップ」、「劇場塾」（戯曲講座、俳優実践講座）、「チャレンジ！えんげき」、「バックステージツアー」、演劇やダンスのワークショップなど10事業で152回のアクティビティが実施された。
- 06年度は、表現教育推進事業で「実践講座（トライ！ドラマ）」、「先生レクチャー」といった講座が加わるとともに、「学校出前演劇ワークショップ」が12校で実施され、参加者は1,010人と大きく増加するなど（05年度の約3倍）、学校教育との連携が広がっている。
- 創造参加として、05年度に引き続き、北九州で活動する次世代クリエイターの作品を紹介する公演事業「Next Generation's Theater（NGT）」で3団体・10公演が実施されたほか、「わたしの青い鳥」、「ダンスラボ」など、参加型の創造事業も実施されている。
- 創造参加を加えた学芸事業全体としては、17事業で291回のアクティビティが行われ、参加者数は、05年度を上回る6,758人となっている。

③観る：公演事業

- 「観る」に対応した公演事業では、大ホールで「マンドラゴラの降る沼」、「ピーターパン」、「伝説の女優」、「奇跡の人」、「スウィーニー・トッド」といった人気の高い商業演劇・ミュージカル公演が行われた。また、中劇場を中心に、子供のためのシェイクスピア「リチャード三世」、「月猫えほん音楽会」などの子どもが楽しめる公演や、「イッセー尾形の一人芝居」などの小劇場・現代演劇公演のほか、韓国の劇団木花の「ロミオとジュリエット」などの公演も開催され、話題となった。
- ダンス・現代舞踊では、05年度の山海塾・パリ市立劇場・北九州芸術劇場の共同プロデュース作品「時のなかの時ーとき」が第6回朝日舞台芸術賞グランプリを受賞し、創造拠点としての北九州芸術劇場の位置付けが全国的に認知された。06年度の「金柑少年」の公演にも話題が集まり、99%の高い入場率となっている。
- 公演作品数は18本、公演数は45回、入場者数は29,813人と、公演数、入場者数ともに05年度を上回っている。また、入場率が95%を超えた公演が6本あり、平均入場率は94%と、05年度（83%）と比べても高い数字となっている。
- 提携事業では、伝統芸能や小劇場・現代演劇など7事業、16公演が行われ、落語の独演会や歌舞伎（計4事業、6公演）ではいずれも95%以上の高い入場率となった（観客アンケートでは、古典芸能ジャンルで男性の来場者が多くなっているが、それはこれら独演会等の集客であると考えられる）。
- 創造事業、公演事業、提携事業、演劇祭を含めた公演事業全体の事業数は34本、公演数は130回、入場者数は65,289人と、05年度と比べて、公演数、入場者数が大きく増加した。

④利用者数、利用件数

- さらに、観客だけではなく、主催事業の出演者や関係者、貸館の利用者などを含めた北九州芸術劇場の利用者数、利用件数は図表1-2のとおりで、06年度には自主事業、貸館事業合わせて1,782件の利用件数があり、利用者数は約27万人となっている。05年度と比べ、自主事業での利用件数は862件から1,010件、利用者数は約6万人から約7万人と大きく増加している。一方、貸館は、利用者数、利用件数ともに減少しており、05年度から引き続き、自主事業を主体とした施設利用となっている。

● 03年度からの延べ利用件数は約6,000件、延べ利用者数は約109万人におよぶ。

図表1-2 利用者数、利用件数（2003年度～2006年度）

	2003年度				2004年度			
	大ホール	中劇場	小劇場	計	大ホール	中劇場	小劇場	計
自主事業	23,937	22,890	7,402	54,229	22,445	29,970	16,996	69,411
	(66)	(143)	(121)	(330)	(87)	(242)	(404)	(733)
貸　館	93,100	41,524	10,769	145,393	175,273	71,901	13,626	260,800
	(205)	(145)	(99)	(449)	(482)	(325)	(176)	(983)
合　計	117,037	64,414	18,171	199,622	197,718	101,871	30,622	330,211
	(271)	(288)	(220)	(779)	(569)	(567)	(580)	(1,716)

	2005年度				2006年度				累計
	大ホール	中劇場	小劇場	計	大ホール	中劇場	小劇場	計	
自主事業	13,034	33,153	14,592	60,779	26,027	29,814	15,651	71,492	255,911
	(102)	(289)	(471)	(862)	(139)	(298)	(573)	(1,010)	(2,935)
貸　館	160,673	55,644	10,478	226,795	134,966	55,050	8,853	198,869	831,857
	(467)	(229)	(130)	(826)	(382)	(244)	(146)	(772)	(3,030)
合　計	173,707	88,797	25,070	287,574	160,993	84,864	24,504	270,361	1,087,768
	(569)	(518)	(601)	(1,688)	(521)	(542)	(719)	(1,782)	(5,965)

＊上段の数字が利用者数（単位：人）、下段（　）内の数字は利用件数

図表1-3 北九州芸術劇場 自主事業実績一覧（2006年度）

1 創造事業

	公 演 名	会 場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
1	合唱物語「わたしの青い鳥」2006	中劇場	7/9	1	494	366	74%
2	ダンスラボ2006「BARBABAR」	小劇場	9/9～10	3	312	292	94%
3	錦鯉「北九州公演」	中劇場	11/3～5	4	2,444	2,383	98%
	錦鯉「大阪公演」	イオン化粧品シアターBRAVA！	11/7～8	2	1,426	1,220	86%
	錦鯉「東京公演」	天王洲銀河劇場	11/14～23	11	6,303	5,570	88%
	錦鯉「名古屋公演」	愛知厚生年金会館	11/27	1	1,131	857	76%
	錦鯉「松本公演」	まつもと市民芸術館実験劇場	11/29～30	2	672	597	89%
	錦鯉 計			20	11,976	10,627	89%
4	冒険王07「北九州公演」	小劇場	1/17～21	6	756	658	87%
	冒険王07「長崎公演」	長崎ブリックホール大ホール特設小劇場	1/27～28	3	585	517	88%
	冒険王07 計			9	1,341	1,175	88%
5	地獄八景・・浮世百景「東京公演」	世田谷パブリックシアター	2/9～18	11	6,646	6,646	100%
	地獄八景・・浮世百景「大阪公演」	イオン化粧品シアターBRAVA！	2/23～25	4	4,560	4,237	93%
	地獄八景・・浮世百景「北九州公演」	中劇場	3/1～4	5	2,995	2,928	98%
	地獄八景・・浮世百景 計			20	14,201	13,811	97%
6	北九州芸術劇場リーディングセッション Vol.6「近代能楽集」～「班女」「弱法師」	小劇場	8/19～20	2	273	262	96%
	北九州芸術劇場リーディングセッション Vol.7「マクベス」	小劇場	11/18～19	2	240	197	82%
	リーディングセッション 計			4	513	459	89%
7	シアターラボ2007「想稿・銀河鉄道の夜」	小劇場	3/23～25	4	420	377	90%
計				61	29,257	27,107	93%

2 公演事業

	公 演 名	会 場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
1	スタジオライフ「ドラキュラ」	中劇場	4/2	1	598	537	90%
2	シティボーイズライブ「マンドラゴラの降る沼」	大ホール	5/3～4	2	2,356	2,064	88%
3	ナイロン100℃「カラフルメリィでオハヨ」	中劇場	5/19～21	3	1,674	1,523	91%
4	ライフ・イン・ザ・シアター	中劇場	5/24～28	7	4,725	4,517	96%
5	白石加代子「源氏物語」	中劇場	6/3	1	684	646	94%
6	劇団ダンダンブエノ「トリデ～砦」	中劇場	7/1～2	2	1,140	964	85%
7	劇団木花「ロミオとジュリエット」	小劇場	7/21～22	3	360	331	92%
8	子供のためのシェイクスピア「リチャード三世」	中劇場	7/25	1	550	455	83%
9	月猫えほん音楽会2006	中劇場	8/3	1	568	503	89%
10	ブロードウェイミュージカル「ピーターパン」	大ホール	8/19～20	2	2,396	2,297	96%
11	伝説の女優	大ホール	9/23～24	2	2,428	2,231	92%
12	敦－山月記・名人伝－	中劇場	9/26～27	2	1,330	1,287	97%
13	イッセー尾形のとまらない生活2006 in 秋の小倉	中劇場	10/13～15	3	1,863	1,729	93%
14	もろびとこぞりてVer. 2, 3	小劇場	11/4～5	3	417	269	65%
15	奇跡の人	大ホール	11/18～19	2	2,470	2,424	98%
16	山海塾「金柑少年」	中劇場	2/3～4	2	1,060	1,052	99%
17	スウィーニー・トッド	大ホール	2/22～25	5	5,385	5,282	98%
18	イッセー尾形のとまらない生活2007 in 小倉	中劇場	3/23～25	3	1,863	1,702	91%
計				45	31,867	29,813	94%

3 北九州演劇祭

	公 演 名	会 場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
1	市民参加公演「雨かしら」	小劇場	12/15～17	4	512	477	93%
2	第4回北九州パントマイムフェスティバル	小劇場	10/7～9	4	736	633	86%
計				8	1,248	1,110	89%

4　提携事業

	公　演　名	会　場	公演日	公演数	設定席数	入場数	入場率
1	春風亭小朝・林家正蔵二人会（提携）	大ホール	9/2	1	1,269	1,232	97%
2	松竹大歌舞伎（提携）	大ホール	9/4	2	2,486	2,414	97%
3	飛ぶ劇場「正しい街」（提携）	小劇場	9/22～24	5	625	556	89%
4	桂文珍「独演会」（提携）	大ホール	1/30	1	1,269	1,203	95%
5	南河内万歳一座「百物語」（提携）	小劇場	2/10～11	3	372	271	73%
6	MONO「地獄でございます」（提携）	小劇場	3/10～11	2	272	258	95%
7	春風亭小朝独演会（提携）	中劇場	3/16～17	2	1,400	1,325	95%
	計			16	7,693	7,259	94%

合計（創造・公演・提携事業・演劇祭）	130	70,065	65,289	93%

5　学芸事業

	事　業　名	会　場	実施月	回数	対象	参加者数	備考
（ワークショップ参加）							
1	表現教育推進事業（実践・小学校）	小学校	6～2月	42	小学生	298	鴨生田小・西小倉小
	表現教育推進事業（実践・中学校）	中学校	6～12月	10	中学生	74	城南中
	〃　鴨生田小学校5年発表	小学校	10/31	1	一般	450	観覧者
	〃　鴨生田小学校6年発表	小学校	2/8	1	一般	450	観覧者
	〃　西小倉小学校6年発表	中劇場	12/8	1	一般	140	観覧者
	先生レクチャー:鴨生田小学校	小学校	6/15	1	一般	10	
	表現教育推進事業（サマーセミナー）	稽古場	8/17～20	3	一般＋教職員	32	
	実践講座（トライ！ドラマ）朽網小学校	小学校	9～11月	5	小学5年生	56	
	実践講座（トライ！ドラマ）松ヶ江南小学校	小学校	1～2月	6	小学4･5･6年生	218	
	実践講座（トライ！ドラマ）鞘ヶ谷小学校	小学校	1月	6	小学4･5･6年生	111	
	表現教育推進事業　計			76		1,839	
2	劇場塾2006年度前期（戯曲講座）	セミナールーム・稽古場	5～8月	8	一般	10	
	劇場塾2006年度前期（俳優実践講座①）	稽古場	6/2～4	3	一般	21	
	劇場塾2006年度前期（俳優実践講座②）	稽古場	7/15～16	2	一般	20	
	劇場塾2006年度後期（俳優実践講座①）	小劇場	9/26～27	2	一般	26	
	劇場塾2006年度後期（俳優実践講座②）	稽古場	10/21～22	2	一般	11	
	劇場塾2006年度　計			17		88	
3	チャレンジ！えんげき2006	小劇場	7/25～30	5	小学3年生～6年生	32	
	〃　　発表	小劇場	7/30	1	一般	118	観覧者
	チャレンジ！えんげき2006　計			6		150	
4	バックステージツアー「劇場探検隊『幻のカブトムシを追え！』」	中劇場	6/10～11	4	小学3年生～一般	125	
	バックステージツアー「劇場調査隊『噂の“冒険王”を調査せよ」	大ホール・小劇場	12/26～27	4	小学3年生～一般	123	
	バックステージツアー　計			8		248	
5	学校出前演劇ワークショップ「探検、危機一髪！」①	朽網小学校	7/6	1	小学5年生	58	
	学校出前演劇ワークショップ「探検、危機一髪！」②	明治学園付属小学校	7/13	1	小学5年生	123	
	学校出前演劇ワークショップ「探検、危機一髪！」③	大里東小学校	7/18	1	小学4年生	93	
	学校出前演劇ワークショップ「探検、危機一髪！」④	木屋瀬小学校	10/3	1	小学5年生	63	
	学校出前演劇ワークショップ「探検、危機一髪！」⑤	江川小学校	10/5	1	小学3年生	54	
	学校出前演劇ワークショップ「探検、危機一髪！」⑥	貫小学校	2/13	1	小学5年生	92	
	学校出前演劇ワークショップ「探検、危機一髪！」⑦	上津役小学校	2/14	1	小学3年生	96	
	学校出前演劇ワークショップ「探検、危機一髪！」⑧	吉田小学校	2/19	1	小学5年生	79	
	学校出前演劇ワークショップ「探検、危機一髪！」⑨	八枝小学校	2/20	1	小学5年生	87	
	学校出前演劇ワークショップ「探検、危機一髪！」⑩	筒井小学校	2/26	1	小学4･5年生	69	
	学校出前演劇ワークショップ「探検、危機一髪！」⑪	古前小学校	2/27	1	小学3･4･5年生	70	
	学校出前演劇ワークショップ「探検、危機一髪！」⑫	光貞小学校	2/28	1	小学3年生	126	
	学校出前演劇ワークショップ　計			12		1,010	
6	高校生のための演劇塾	大ホール・中劇場・小劇場・稽古場	8/9～11	6	高校生	66	
7	「イッセー尾形のつくり方」ワークショップin小倉	中劇場	10/10～15	4	一般	39	
8	パントマイム学校アクティビティ	市内小学校、福祉施設、病院他	9～10月	19	一般	1,071	
9	飛び石プロジェクト	稽古場	11/18～19	2	一般	11	
10	南河内万歳一座ワークショップ	小劇場	2/6～7	2	一般	33	
	ワークショップ参加　計			152		4,555	

	事　業　名	会　場	実施月	回数	対象	参加者数	備考
（創造参加）							
1	ネクストジェネレーションズシアター：劇団二番目の庭「No Good Tales」	小劇場、稽古場	4/15～16	3	一般	353	観覧者
	ネクストジェネレーションズシアター：さかな公団「明日のマコ」	小劇場、稽古場	4/21～22	3	一般	313	観覧者
	ネクストジェネレーションズシアター：のこされ劇場≡「つる」	小劇場、稽古場	4/28～30	4	一般	403	観覧者
	ネクストジェネレーションズシアター　計			10		1,069	
2	合唱物語「わたしの青い鳥」2006	中劇場他	5～7月	15	小学3年生～一般	44	
3	ダンスラボ2006	小劇場・稽古場	8～9月	23	一般	10	
4	北九州ドラマ創作工房Ⅲ	吉田市民センター・小劇場	4～7月	13	小学4年生～一般	34	
	北九州ドラマ創作工房Ⅲ「くじら島騒動顛末記」	小劇場	7/2	2	小学4年生～一般	182	観覧者
	北九州ドラマ創作工房Ⅳ	鞘ヶ谷市民センター	12～3月	9	小学4年生～一般	41	
	北九州ドラマ創作工房　計			24		257	
5	第4回北九州パントマイムフェスティバル	小劇場	9～10月	15	小学4年生～一般	633	観覧者
6	「冒険王07」的エンゲキ学級	小劇場	12/27～28	2	小学4年生～6年生	24	
	〃　　発表	小劇場	12/28	1	一般	86	観覧者
	「冒険王07」的エンゲキ学級　　計			3		110	
7	シアターラボ2007	小劇場、稽古場	10～3月	48	一般	20	
	シアターラボリーディング公演	稽古場	11/11	1	一般	60	観覧者
	シアターラボ　　計			49		80	
創造参加　計				139		2,203	
計（学芸事業）				**291**		**6,758**	

総計	**421**		**72,047**	

(3) 施設稼働率

- 北九州芸術劇場の06年度の稼働率は、大ホールが70.9%、中劇場が70.6%、小劇場が83.0%となっている。05年度と比較すると、小劇場の稼働率が高くなっている。なお、稼働率算出の基準が若干異なるが、（社）公立文化施設協会加盟館の全国平均の稼働率59.8%（04年度）と比較すると、高い水準にある。

図表1-4 北九州芸術劇場の稼働率（2003年度～2006年度）

	2003年度			2004年度			2005年度			2006年度		
	大ホール	中劇場	小劇場	大ホール	中劇場	小劇場	大ホール	中劇場	小劇場	大ホール	中劇場	小劇場
公演日数	99	100	83	219	207	220	223	189	222	202	199	254
利用対象日数	103	107	86	277	283	304	281	276	297	285	282	306
稼働率	96.1%	93.5%	96.5%	79.1%	73.1%	72.4%	79.4%	68.5%	74.7%	70.9%	70.6%	83.0%

注）　稼働率は「稼働日数／利用対象日数」、利用対象日数は、保守点検日・調整日を除いたもの

2．事業費の内訳と収支

次に、北九州芸術劇場の事業費の財源内訳と収支について、過去3ケ年と同様の分析を行った。

(1) 事業費の財源と事業支出の内訳

- 北九州芸術劇場の06年度の事業費は約4億3,000万円と、05年度に比べて1.5倍近くとなっている。これは、チケット収入が約2億6,000万円と大きく増えているためで、事業費全体の61.4%を占める。事業費全体が増えているため、市補助金、外部資金の割合ともに05年度と比べて少なくなっており、市補助金の割合は全体の24.7%、文化庁と（財）地域創造の外部資金は13.9%となっている。
- チケット収入の大幅な増額は、全国展開型の創造事業や大ホールでの公演事業に対応し

た北九州芸術劇場の集客力、営業努力の結果として評価できよう。

- 財団運営の公立ホールの平均的な事業費の財源（（財）地域創造調査、02年12月）をみると、チケット収入の割合は、都道府県立の施設が41.0%、政令市・特別区立の施設が45.7%、補助金の割合は、同じく54.0%、50.9%、外部資金の割合は、同じく4.9%、3.4%となっており、このデータとの比較では、北九州芸術劇場の06年度のチケット収入の割合、外部資金の獲得割合はともに全国平均を大きく上回っており、その結果、市の補助金の割合は全国平均と比べて、大幅に低くなっている。

図表1-5 事業費の財源内訳（2003年度～2006年度）

（千円）

		2003年度		2004年度		2005年度		2006年度	
		金額	内訳	金額	内訳	金額	内訳	金額	内訳
チケット収入		215,389	54.1%	145,429	43.2%	110,060	37.0%	263,901	61.4%
市補助金		112,225	28.2%	124,198	36.9%	121,965	41.0%	106,363	24.7%
外部資金		70,700	17.7%	67,000	19.9%	65,295	22.0%	59,517	13.9%
	文化庁	49,000	(12.3%)	49,000	(14.6%)	45,795	(15.4%)	45,800	(10.7%)
	地域創造	10,000	(2.5%)	18,000	(5.3%)	19,500	(5.3%)	13,717	(3.2%)
	日本財団	11,700	(2.9%)	―	―	―	―	―	―
計		398,314	100.0%	336,627	100.0%	297,320	100.0%	429,781	100.0%

(2) 事業収支

- 06年度の文化振興特別会計の収入の部の決算報告をみると、05年度に比べて、予算額が大幅に増えているのは、(1)で延べたとおり、チケット収入の増加によるものである。
- 06年度の予算額と決算額の差異は、補助金等収入では約6,100万円と、05年度より拡大している。市補助金等について差異が大きいのは、開館以来培ってきた交渉力や効率性の向上が経費削減に結びついていること、交通費や宿泊費について積極的な経費削減の努力を行っていることなどが影響していると考えられる。
- 経費削減のための取り組みの一例としては、北九州芸術劇場では、06年3月の新北九州空港開港に伴い、事業で東京の劇団・カンパニー等が東京-北九州を往復する際の航空券について、06年度から（株）スターフライヤーとの契約で団体券等の手配を行っており、06年度の東京－北九州間の航空運賃は、05年度に比べて一人あたり片道約4,100円の削減となっている（05年度、06年度の事業費から試算）。
- また、北九州滞在期間中の宿泊費についても市内ホテルと契約を結び、団体割引で宿泊できるようにするなど、事業実施にあたっての経費削減のための努力を積み重ねている。

図表1-6 事業収入、補助金等収入の予算額・決算額（2003年度～2006年度）

（千円）

		2003年度			2004年度			2005年度			2006年度		
		予算額	決算額	差異	予算額	決算額	差異	予算額	決算額	差異	予算額	決算額	差異
事業収入		194,300	215,389	△ 21,089	146,346	145,429	917	130,500	110,060	20,440	265,709	263,901	1,808
補助金等収入		205,700	182,925	22,775	209,300	191,198	18,102	219,500	187,260	32,240	227,531	165,880	61,651
	市補助金	135,000	112,225	22,775	135,000	124,198	10,802	151,000	121,965	29,035	145,000	106,363	38,637
	助成金	70,700	70,700	0	74,300	67,000	7,300	68,500	65,295	3,205	82,531	59,517	23,014

第2章 観客の特性と観客からみた評価

本章では、開館以来継続的に実施している、公演に来場した観客に対するアンケート調査の結果から、2006年度の観客の特性、観客からみた北九州芸術劇場の評価を整理・分析した。

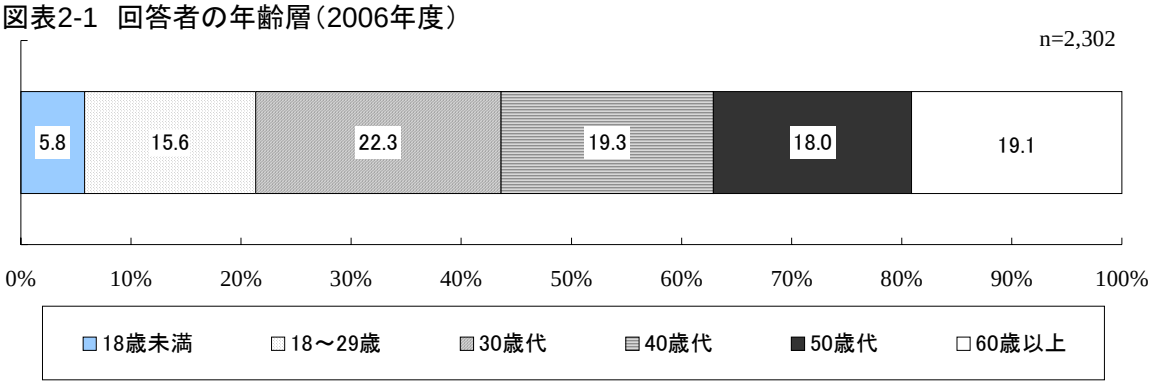
1．観客調査の実施要領

- 調査の対象：2006年度に実施した主催・共催事業公演　34公演
- 配布・回収方法：各公演の開演時に配布、終演時に回収（後日ファックス、郵送での回収も受付）
- 実施時期：2006年4月2日～2007年3月23日
- 有効回答数：2,766件、回収率：15.0%（配布数：18,385件）

（1）観客（アンケート回答者）の属性（p.資-10～21）

- 性別は、「女性」が79.4%、「男性」が20.6%と、「女性」の割合が高い。
- 回答者の平均年齢は43.4歳。最も割合が高いのは「30歳代」（22.3%）であるが、年齢の偏りはほとんどなく、幅広い年齢層からの来場がある。

図表2-1　回答者の年齢層（2006年度）



- 居住地域は、「北九州市」が61.9%、「北九州市周辺」が12.5%で、北九州市域からの来場者が約75%を占める。ジャンル別でみると、子どもの来場者が多い音楽劇や、来場者の年齢が高い古典芸能は「北九州市」からの来場割合が高い。一方、「ダンス・現代舞踊」では、「北九州市」からの来場者は40.0%で、「福岡市」（18.9%）をはじめ、北九州市域以外からの来場割合が高い。
- チケットクラブには回答者の23.1%が入会している。入会していない場合、今後入会意向があるのは25.3%である。

（2）北九州芸術劇場での公演鑑賞の実態

①来場公演のジャンル（p.資-24～25）

- 回答者が来場した公演のジャンルは、「小劇場・現代演劇」が35.8%と最も割合が高く、次いで「ミュージカル・商業演劇」（33.3%）となっている。
- 来場公演のジャンルを男女別にみると、女性に比べて男性の割合が高いジャンルは「古典芸能」、女性の割合が高いジャンルは「ミュージカル・商業演劇」である。
- 年齢別にみると、60歳以上では「古典芸能」の割合が55.9%を占めており、他の年齢層に比べて割合の高さが顕著である。また、18歳未満では他の年齢層に比べて「音楽劇」（15.8%）

の割合が高い。これは、2006年度は「わたしの青い鳥」、「月猫えほん音楽会」といった子どもが鑑賞しやすい公演が分類されているためと考えられる。

②公演情報の入手経路（p.資Ⅰ-26～27）

- 公演情報の入手経路は、全体では「友人・知人から聞いた」（21.6%）の割合が最も高く、「新聞」（18.7%）、「ダイレクトメール」（16.6%）と続く。「インターネット」の割合は、毎年少しずつ高くなっている。
- 年齢別にみると、50歳代と60歳以上では「新聞」、40歳代では「ダイレクトメール」、30歳代以下では「友人・知人から聞いた」の割合が最も高い。
- チケットクラブ会員では、「ダイレクトメール」が49.5%と高い割合を占める。次いで「他の公演で配布されたチラシ」（19.4%）となっており、チラシを情報源としている割合が非会員と比べて顕著に高い。一方、非会員では、「友人・知人から聞いた」が25.8%と最も高く、口コミが重要な情報源となっている。
- 北九州芸術劇場での鑑賞経験別にみると、鑑賞経験が多いほど「ダイレクトメール」、「他の公演で配布されたチラシ」を、鑑賞経験が少ないほど「友人・知人から聞いた」を情報源としている割合が高い。

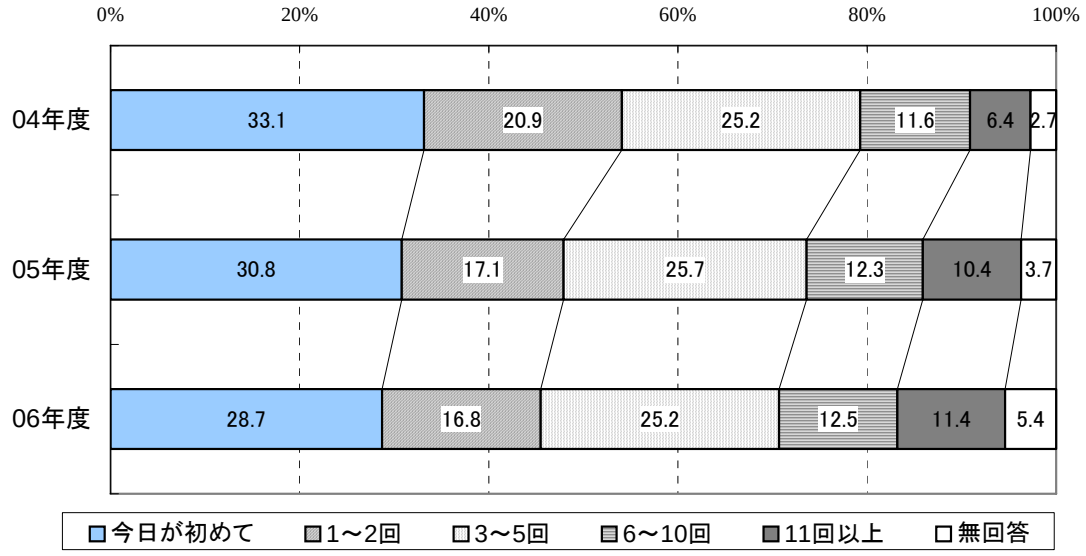
③公演に来た理由（p.資-28～29）

- 公演に来た理由は、「出演者等が好きだから」、「公演内容が面白そうだったから」がそれぞれ約半数である。18歳未満では、「人に誘われたから」（33.1%）が他の年代に比べて顕著に高い。

④北九州芸術劇場での鑑賞経験（p.資-48～49）

- 北九州芸術劇場での鑑賞経験は、「今日が始めて」が28.7%と最も割合が高く、「年3～5回」（25.2%）、「年1～2回」（16.8 %）と続いており、初心者からリピーターまで幅広い鑑賞者がある。「6～10回」と「11回以上」への回答割合は05年度、06年度と前年度に比べて少しずつ増えており、劇場に継続的に足を運ぶ観客が増えている。
- チケットクラブ非会員では、北九州芸術劇場での鑑賞が「今日が初めて」が38.0%を占める。一方、会員では、「11回以上」が30.0%と最も割合が高い。

図表2-2　北九州芸術劇場での鑑賞経験（2004年度～2006年度の比較）



⑤公演前後の飲食やショッピング（p.資-30～31）

- 来場者の60.3%が公演前後に飲食あるいはショッピングをしており、平均金額は、飲食の場合が1,856.6円（飲食をしている回答者の割合：全体の51.6%）、ショッピングの場合が5,724.6円（ショッピングをしている回答者の割合：全体の26.3%）である。

（3）公演や劇場に対する満足度（p.資-32～41）

- 満足度に関する11項目のうち、満足層の割合（「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く）が90%以上を占めるのは、「本日の公演内容」、「本日の公演のチケット料金」、「電話予約・チケットカウンターの応対」、「劇場係員の応対」、「劇場の立地」、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」の6項目。うち、「本日の公演内容」、「劇場係員の応対」、「劇場の立地」の3項目については、「たいへん満足」の割合も40%以上と高い。特に、「本日の公演内容」は「たいへん満足」が54.2%と高い評価を受けている。
- 年齢別にみると、60歳代以上ではすべての項目で「たいへん満足」の割合が他の年齢層に比べて低く、特に「公演情報の入手のしやすさ」、「入口・案内表示の見易さ」、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」といった情報入手や劇場のハード面でその傾向は顕著である。
- 北九州芸術劇場での鑑賞経験別にみると、「公演情報の入手のしやすさ」については、鑑賞経験が多いほど「たいへん満足」の割合が高くなっている。
- 満足度に関する11項目を、①公演、②サービス、③施設の3つに分けて、満足層の割合の経年変化でみると、次のとおりである（図表2-3参照）。

①公演について

- 「公演内容」については、開館年度（03年度）から満足層の割合が高く、継続して高い満足度を維持している。「たいへん満足」の割合も高く、観客からの評価は極めて高い。
- 「公演のチケット料金」は、04年度、05年度と満足層の割合が高くなり、2006年度は若干低くなっている。

※「年間ラインナップ全体の内容」は、03年度は満足層の割合が88.5%であったが、04年度以降は76～79%で推移している。これは、03年度は、開館記念ラインナップを一覧にした表が調査票に掲載されていたが、04年度以降は紙面の都合等から掲載されておらず、回答者がラインナップ全体の内容を把握できないことが影響していると考えられる。

②サービスについて

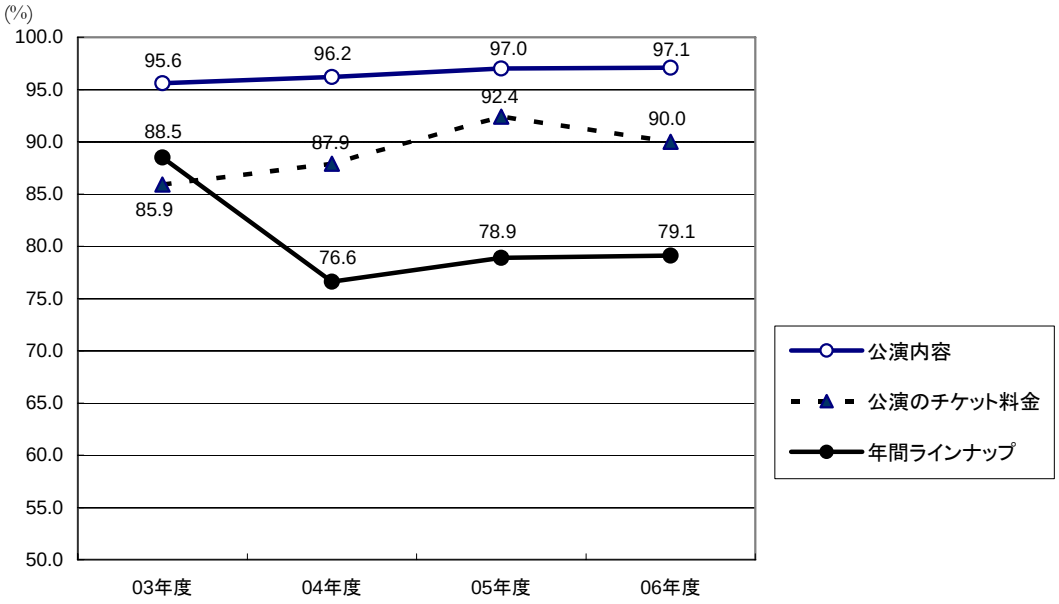
- サービスに関わる4項目は、いずれも04年度に満足度が大きく向上している。「劇場係員の応対」、「電話予約やチケットカウンターの応対」は、04年度に満足層の割合が90%を超え、05年度以降も高い満足度を維持している。
- 開館当初は満足層の割合が他の9項目に比べて低かった「チケットの予約・購入のしやすさ」、「公演情報の入手のしやすさ」は、満足層の割合の伸びが大きく、06年度は満足層の割合が約80%となっている。

③施設について

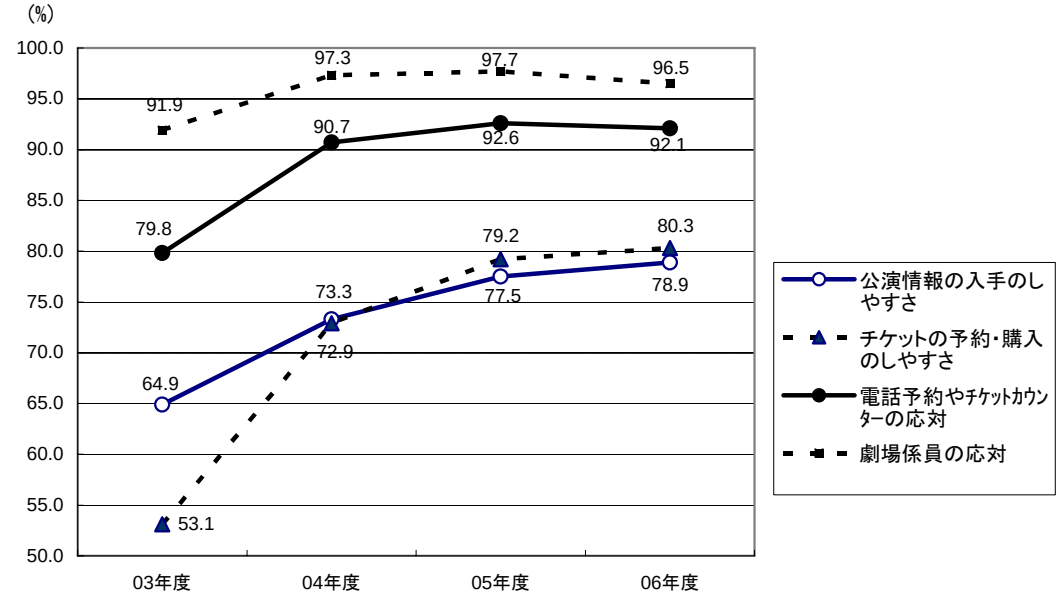
- 施設に関わる4項目のうち、「劇場の立地」と「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」の2項目は、開館当初から満足層の割合が高く、そのまま高い水準を維持している。一方、開館年度に満足層の割合が7割未満だった「劇場の入口・案内表示のみやすさ」は、年々満足度が高まり、06年度は78.7%まで向上した。これは、観客が慣れてきたこともあるが、案内表示の増設や既存サイン文字の大型化、駐車場エレベーター入り口での音声案内など劇場側の工夫や努力の成果が大きいといえよう。

図表2-3　満足層の割合（2003年度～2006年度の経年変化）

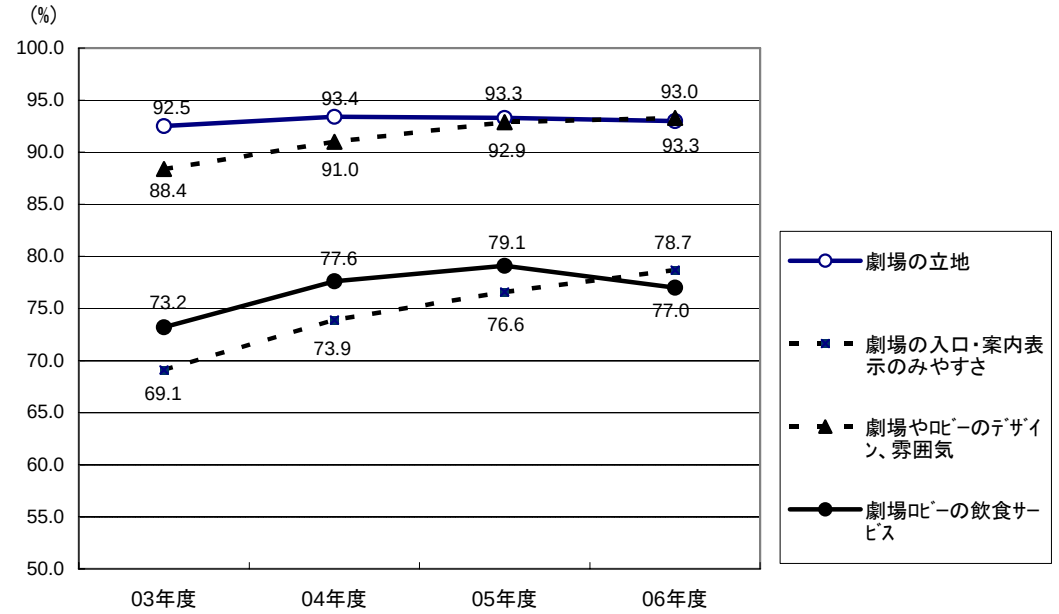
【①公演】



【②サービス】



【③施設】



- なお、満足度については、いずれの項目も年齢層が高くなるほど満足度は低くなる傾向がある。
- 劇場に関する総合的な満足度は、満足層の割合が94.3%、「たいへん満足」の割合が20.1%で、04年度と比べて、若干ではあるが、満足層、「たいへん満足」の割合ともに高くなっている。年齢層が低いほど「たいへん満足」の割合が高い。

（4）劇場の運営方針について（p.資-42～44）

- 北九州芸術劇場の基本方針の「観る」、「創る」、「育つ」については、いずれも90%以上が賛同している（「ぜひやってほしい」＋「まあやってほしい」 無回答を除く）。
- 「育つ」については、18歳未満で「ぜひやってほしい」と積極的に賛同する割合が高い。

（5）日頃の鑑賞活動について

①日頃コンサートや演劇に出かける頻度（p.資-46～47）

- 日頃コンサートや演劇に出かける頻度は、「年に3～4回」（24.9%）、「年に1～2回」（23.2%）、「年に5～9回」（18.1%）となっており、来場者の日頃の舞台芸術の鑑賞頻度は多様である。
- なお、北九州芸術劇場での鑑賞は初めてでも、日頃月1回以上コンサートや演劇に出かける人（「月に1回程度」～「月に3回以上」の計）は9.5%となっている。

②興味のあるジャンル（p.資-50～52）

- 全体では、「有名俳優の演劇」（53.6%）、「ミュージカル・宝塚歌劇」（52.7%）、「映画」（52.2%）の3ジャンルが50%以上と高い割合となっているが、「寄席・演芸・お笑い・独演会等」（43.6%）、「小劇場・現代演劇」（41.5%）などの割合も高く、興味のあるジャンルは多様である。
- 興味のあるジャンルは、性別や年齢で特徴がある。性別でみると、男性は「寄席・演芸・お笑い・独演会等」、「映画」、女性は「有名俳優の演劇」、「ミュージカル・宝塚歌劇」への回答割合が高い。
- 年齢別でみると、30歳代以下では「映画」の割合が最も高く、他の年齢層に比べ、若年層で「小劇場・現代演劇」、「ポップス・ロック」の割合が高い。一方、60歳代以上では「有名俳優の演劇」の割合が最も高いものの、「寄席・演芸・お笑い・独演会等」、「能・狂言・文楽・歌舞伎等」への回答割合も他の年齢層に比べて顕著に高い。

第3章　劇場使用者からみた北九州芸術劇場

本章では、演劇やダンス等の公演で北九州芸術劇場を使用したことのある劇団やカンパニー等を対象に実施したグループインタビューの結果を、劇場使用者からみた北九州芸術劇場の評価として整理した（グループインタビュー結果の詳細は、資料Ⅱに掲載）。

1．グループインタビュー調査の実施要領

（1）グループインタビューの対象

- 演劇やダンス等の公演で北九州芸術劇場を使用したことのある劇団・カンパニー、鑑賞団体等（劇場使用者）を、次の2つのグループに分けてグループインタビューを実施した。
  - グループ1：北九州・福岡地域の使用者（鑑賞団体の事務局長、劇団・カンパニーのメンバー）　5名
  - グループ2：首都圏・関西地域の使用者（劇団・カンパニーの代表、制作担当者）　5名
  - グループ1は主に貸館や学芸事業、グループ2は北九州芸術劇場の主催公演、提携公演での使用である。

(2)インタビュー項目

- インタビュー項目は、グループの特徴や活動内容、事業内容を考慮し、次のとおり設定した。
  - 北九州芸術劇場の施設（劇場、舞台設備、楽屋などのハード）［グループ1、2共通］
  - 北九州芸術劇場のソフト
    ［グループ1］　スタッフの対応やサービス
    ［グループ2］　公演実施にあたっての北九州芸術劇場の連携、協力体制
  - 劇場の使用方法や手続き　［グループ1］
  - 北九州芸術劇場の実績、評価
    ［グループ1］　北九州芸術劇場が地域や地元劇団にもたらした変化や効果
    ［グループ2］　劇団・カンパニーからみた北九州芸術劇場の実績、評価
  - 北九州芸術劇場の事業や運営についての期待や要望　［グループ1、2共通］

2．グループインタビュー結果の概要

（1）北九州芸術劇場の施設（劇場、舞台設備、楽屋などのハード）［グループ1、2共通］

- 劇場施設、設備については、グループ1、グループ2ともに、舞台芸術のための専用劇場としての施設、設備構成であることに対する評価が高い。
- グループ1の鑑賞団体からは、招聘した劇団から「集中できて使いやすい」、「客席からの距離が近い」、「音が素晴らしい」といった評価を得ており、会場が北九州芸術劇場であることがプラスになっているとのコメントが出ている。これは、劇場をつくる過程で専門家の意見を取り入れ、また、そういった専門家を劇場に入れているためであると、劇場側の運営姿勢を評価する意見があがっている。
- また、グループ2では、楽屋の使いごこちがよく、東京から入るカンパニーの気持ちが違うというのが共通意見であった。

（2）北九州芸術劇場のソフト

① スタッフの対応やサービス ［グループ1］

- グループ1の若手劇団・カンパニーのメンバーからは、日常的なスタッフの対応やアドバイスを評価する声が高い。
- また、「どうすれば芝居がよくなるかを真剣に考えてくれる」、「だめだとは言わずに、どうしたらいい方向に持っていけるかアドバイスしてくれる」、「劇場の使い方やルールがわかった」といった意見が多数聞かれ、若手の育成という面でも、スタッフの取組み姿勢や経験が与える影響は大きい。

② 公演実施にあたっての北九州芸術劇場の連携、協力体制 ［グループ2］

- グループ2では、劇場側が、劇団やカンパニー側の視点に立った連携、協力体制をつくっていることを評価する声が高い。
- 北九州芸術劇場のスタッフについては、「人間関係が作れる」、「訓練されているという感じ」、「個性は違うが対応は変わらない」と大変評価が高く、劇場スタッフのきめ細かい対応について、具体例が多数あげられた。
- 北九州芸術劇場と共同プロデュースで作品づくりをしているダンスカンパニーからは、「どうなるかわからない作品に対して、公共ホールとしてお金や人を投資するというリスクを取るというのはなかなかできないこと。感謝している」いう意見が聞かれた。また、別のカンパニーからは、「ワークショップ型の作品づくりが花開いてきたのは、北九州芸術劇場がきっかけ」という意見も聞かれ、北九州芸術劇場の「創る」というコンセプトによる取り組みが劇団やカンパニーにも影響を与え、支持を受けていることがわかる。
- 集客やチケット販売など営業面でも、劇団やカンパニーからの信頼が厚く、空席への対応、チケット販売に対する劇場側の対応を評価する声が高い。「（北九州公演で）お客さんが根付いてきた」という感触は、いずれの劇団・カンパニーも実感として持っており、その成果として、「北九州では、他の劇場に比べて多めのステージ数をとってもらっている」という意見があがっている。

（3）劇場の使用方法や手続き ［グループ1］

- 貸館で使用する際の使用方法や手続きについては、北九州芸術劇場と旧小倉市民会館の違いも含めて、意見を聴取した。
- 北九州芸術劇場と旧小倉市民会館では、使用にあたっての手続きやスタッフの対応等が異なるため、北九州芸術劇場の開館当初は戸惑いがあったという率直な意見があがった。
- 開館から4年が経過した現在では、「建物や設備の違いから使い方のルールが厳密になっていることは理解できる」、「計画書を劇場に持っていき、計画や要望について打合せを行なうことで、劇場側との交流が密になった」と前向きな評価となっている。また、技術的な面で、招聘した劇団の監督やスタッフからの北九州芸術劇場に関する評価が高いことは、団体の事業にプラスになっているという意見が聞かれた。
- 一方、中劇場、小劇場が自主事業のために使えない時期があることについては、市民として疑問に感じるという意見もあがっている。

（4）北九州芸術劇場の実績、評価

①北九州芸術劇場が地域や地元劇団にもたらした変化や効果 ［グループ1］

- 北九州芸術劇場が地域や地元劇団にもたらした変化や効果として、福岡と北九州、あるいは劇団相互の連携ができ始めたということが共通の意見としてあがった。

- また、北九州芸術劇場のプロデュース公演等を経験することで、役者も劇団自体も成長し、北九州での演劇活動や演劇活動自体に自信が生まれてきたという意見があがっている。
- 北九州芸術劇場の学校との連携事業を評価する意見も出ており、開館以前のプレ事業時からの若手劇団・カンパニーの発掘事業・育成事業が、効果を生みつつあるといえよう。

②劇団・カンパニーからみた北九州芸術劇場の実績、評価 ［グループ2］

- 首都圏や関西の劇団・カンパニーからは、北九州芸術劇場の開館以降、九州の公演拠点ができ、定期的に九州公演を行うようになったという意見が共通している。
- また、北九州芸術劇場の運営方針や舞台芸術への取組み姿勢を評価し、「公共ホールとしてどうあるべきかを考えている劇場」、「1回は劇場に行ってみようと思う人をどのくらい増やせるか。お客さんとのネットワークづくりが今後の劇場・ホール全体の課題であり、北九州芸術劇場はそれができる劇場」であると、期待の声が高い。

（5）北九州芸術劇場の事業や運営についての期待や要望 ［グループ1、2共通］

- 搬入・搬出、駐車場など、ハードに対する利便性について、要望があった。
- また、グループ1からは、稽古場の地元劇団の利用、若手の劇団が北九州芸術劇場に関わるための間口（ワークショップやオーディションの実施）の拡大、意見交換の機会について、要望があった。
- グループ2からは、来場者がより劇場に対する理解を深めるためにも、劇場事業全般に対する、より幅広く、積極的な情報発信が必要ではという提案があった。

第4章 経済波及効果とパブリシティ効果

劇場の運営は、様々な経済効果を生み出し、地域の活性化を促すと言われている。ここでは、昨年度調査と同様、経済波及効果について、産業連関表を用いた分析を行うとともに、パブリシティ効果について、その概要と金額換算による規模の把握を行った。

1. 経済波及効果

劇場の運営にともなう経済波及効果には、劇場および観客の支出からなる最終需要（直接的経済効果）、それに伴う生産増、そしてそれらがもたらす所得増、雇用増、税収増などが考えられる。

今年度の調査では、昨年度同様、産業連関表に基づいた経済波及効果に加え、雇用効果を試算した。

(1) 北九州芸術劇場の経済波及効果の基本構造と分析方法

- 経済波及効果をもたらす支出（最終需要）は、
  ①劇場の運営管理に関する支出
  ②劇場の主催事業に関する支出
  ③劇場の主催事業の観客の消費支出
  ④貸館の事業主催者の事業支出
  ⑤貸館事業の観客の消費支出
  の5つに分類することができる（図表4-1参照）。
- 今回の調査では、①、②については、劇場の運営データに基づいて、③については観客アンケートの調査結果に基づいて、把握・推計を行った。
- ④については貸館事業者からのデータ提供が必要であるが、今回は調査対象となっていないため、貸館事業の1公演あたりの支出を、主催事業1公演当たりの支出の20%もしくは30%と想定して、この二つのケースについて、支出額を試算した。
- また、主催事業の観客アンケート調査の結果をみると、北九州市内だけではなく、九州全域や他の地域からも幅広く観客を集めているのに対し、貸館の事業内容をみると、同じように幅広いエリアから集客したり、同じような消費活動を行ったりしているとは考えにくいため、⑤については、③のデータを援用して試算した。
- したがって、④、⑤の計算結果については、あくまでも参考値である。
- また、これらの計算結果のうち、北九州市内の経済波及効果と福岡県の雇用表の就業係数、雇用係数を用いて、北九州芸術劇場がどのぐらいの雇用効果を有しているかを試算した。

(2) 分野別の最終需要と経済波及効果、雇用効果

- 上記①から⑤の分野別に見た最終需要と、産業連関表を使った経済波及効果の計算結果は、図表4-1に示したとおりである。①劇場の運営管理、②劇場の主催事業、③主催事業の観客の消費支出にともなう最終需要の金額は、それぞれ6億9,800万円、6億4,400万円、2億9,700万円、合計で16億3,900万円となっている。そのうち、67.4％にあたる11億400万円が北九州市内での最終需要である。
- これら最終需要に伴う経済波及効果は、①が9億6,400万円、②が9億7,700万円、③が4億4,300万円、合計で23億8,400万円である。そのうち、61.8%にあたる14億7,200万円が北九州市内での経済波及効果である。生産誘発係数は、全体で1.45、北九州市内で1.33である。
- 参考値ではあるが、貸館の事業主催者の支出および貸館の観客の消費支出による経済波

及効果（北九州市内のみ）は、6億8,900万円～8億1,600万円、生産誘発係数は1.33である。

- それらをあわせた経済波及効果の総合計は、約30億7,300万円～32億円で、北九州市内に限ってみると、約21億6,100万円～22億8,800万円となっている。
- また、これら経済波及効果の結果から試算した雇用効果は、就業者数（労働量）では181～191人、雇用者数（有給の役員・雇用者数、常勤・臨時含む）で151～162人で、対個人サービス、対事業所サービス、商業などの分野を中心に雇用効果が現れている。

図表4-1 北九州芸術劇場の経済波及効果、雇用効果

		最終需要	経済波及効果	誘発係数
運営管理・主催事業	①運営管理 事務局経費、委託費、光熱水費、その他	6億9,800万円 （6億1,700万円）	9億6,400万円 （8億2,700万円）	1.38 （1.34）
	②主催事業 出演料、創作スタッフ費、音楽費、製作費（交通費、宿泊費、食費、制作雑費）、宣伝費、記録費、予備費	6億4,400万円 （3億1,700万円）	9億7,700万円 （4億2,000万円）	1.52 （1.33）
	③主催事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費、宿泊費	2億9,700万円 （1億7,000万円）	4億4,300万円 （2億2,600万円）	1.49 (1.33)
	小計	16億3,900万円 （11億400万円）	23億8,400万円 （14億7,200万円）	1.45 （1.33）
貸館（参考値）	④貸館事業（貸館主催者の支出） 出演料、製作費、その他	1億9,300万円 ～2億9,000万円	2億5,500万円 ～3億8,200万円	1.32
	⑤貸館事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費	3億2,400万円	4億3,400万円	1.34
	小計（参考値）	5億1,800万円 ～6億1,400万円	6億8,900万円 ～8億1,600万円	1.33
	合計（参考値）	21億5,600万円 ～22億5,300万円 （16億2,200万円～17億1,900万円）	30億7,300万円 ～32億円 （21億6,100万円～22億8,80万円）	1.42 （1.33）
		雇用効果 （北九州市内）	181～191人（就業者ベース） 151～162人（雇用者ベース）	

注）下段の括弧内の数字は、北九州市内の最終需要、経済波及効果。貸館については、最終需要、経済波及効果とも北九州市内のみと想定した試算結果である。また、各データは四捨五入した数字のため、小計、合計の数値が各データの小計、合計と合わない箇所がある

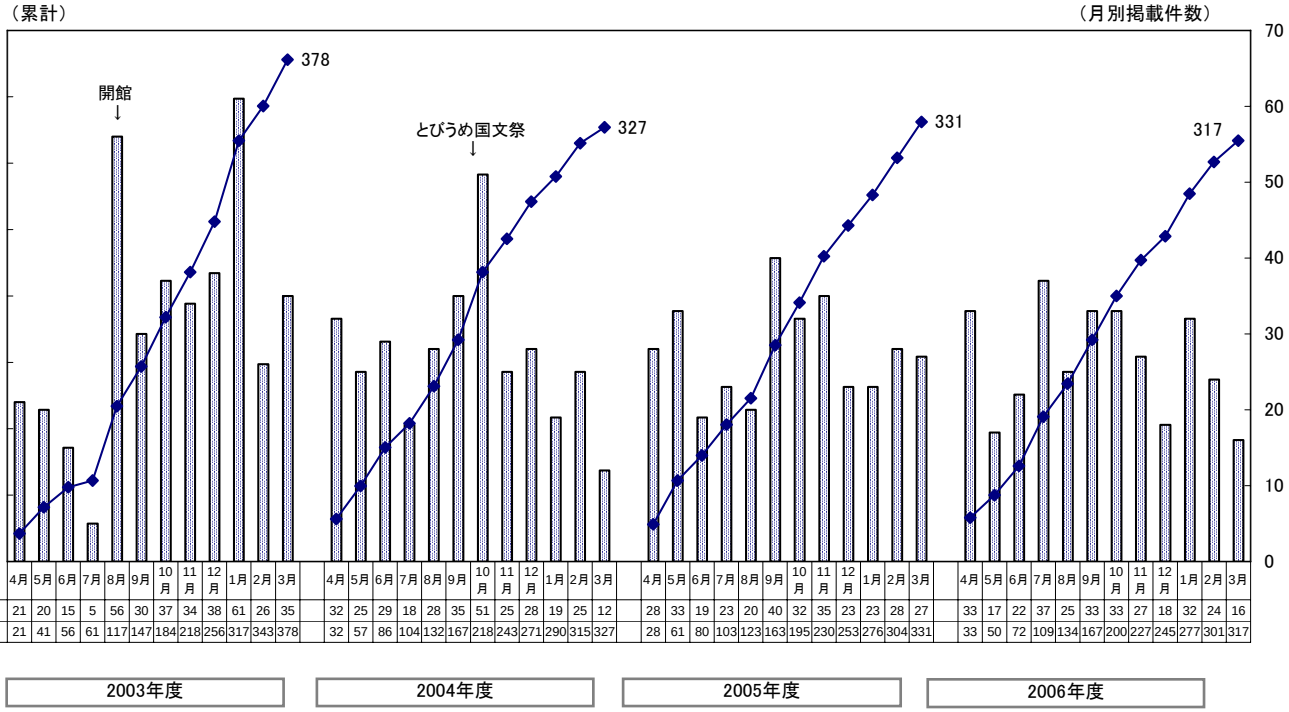
2. パブリシティ効果

文化的な催しや劇場運営においては、新聞や雑誌への記事掲載やテレビ報道などによって、地域の認知度向上やイメージアップが図られるケースが多く、それらは「パブリシティ効果」と呼ばれている。そして、その効果は、記事の大きさなどを基準にした広告宣伝費を目安にして、しばしば金額換算される。本事業評価調査では、2003年度から新聞記事に焦点を当てたパブリシティ効果を算出しており、2006年度も、引き続きパブリシティ効果の算出を行なった。

(1) 2006年度の掲載記事の件数と内容

- 06年度についてみると、「北九州芸術劇場」をキーワードに検索された新聞記事の件数は317件で（図表4-2）である。
- 開館年度で話題性が高かった03年度、とびうめ国文祭の開催で特に10月に関連記事が多かった04年度と比べ、06年度は大きなイベントはないものの、05年度と同様、「北九州芸術劇場」を会場とするイベントや関連記事が毎月コンスタントに掲載されている。

図表4-2 新聞記事掲載件数の推移（2003～2006年度）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月別件数	21	20	15	5	56	30	37	34	38	61	26	35
累計	21	41	56	61	117	147	184	218	256	317	343	378

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月別件数	32	25	29	18	28	35	51	25	28	19	25	12
累計	32	57	86	104	132	167	218	243	271	290	315	327

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月別件数	28	33	19	23	20	40	32	35	23	23	28	27
累計	28	61	80	103	123	163	195	230	253	276	304	331

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月別件数	33	17	22	37	25	33	33	27	18	32	24	16
累計	33	50	72	109	134	167	200	227	245	277	301	317

資料）「日経テレコン」記事検索の結果より作成

- 新聞別に見ると、最も多いのは西日本新聞（149件）、次いで、朝日新聞（60件）、日経新聞（37件）、読売新聞（31件）、毎日新聞（20件）となっている（図表4-3）。

図表4-3 新聞別件数一覧（2003～2006年度）

掲載紙	掲載件数			
	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
西日本新聞	151	147	149	149
読売新聞	40	61	46	31
朝日新聞	78	52	48	60
日本経済新聞	34	32	37	37
毎日新聞	58	31	34	20
その他	17	4	17	20
計	378	327	331	317

資料）「日経テレコン」記事検索の結果に基づく

- これら記事を、
  ① 北九州芸術劇場の公演紹介・取材記事、劇評など
  ② 北九州芸術劇場のPRキャンペーン、劇場主催イベントの紹介記事
  ③ 情報コーナーなどでの公演情報の提供等
  ④ 芸術文化以外のイベント、講演の紹介記事（会場名が「北九州芸術劇場」）
  ⑤ 情報コーナーなどでの芸術文化以外のイベントの情報提供（会場名が「北九州芸術劇場」）

  の5種類に分類し、北九州芸術劇場として記事性の高い①と②を抽出したところ、163件であった。
- その内容を、「自主事業／共催事業」、「学芸事業」、「貸館事業」、「その他（劇場全般、劇場職員への取材記事等）」に分類すると、それぞれ、88件、17件、23件、35件であった（図表4-4）。
- 06年度は、2005年度に引き続き「自主事業／共催事業」の数が多く、05年度と比べて件数はさらに増えている。
- 「自主事業／共催事業」については、創造事業の「錦鯉」の公演が北九州芸術劇場のほかに東京、大阪、名古屋、松本、「地獄八景」が東京と大阪で行われ、北九州芸術劇場プロデュースとして全国紙や全国紙の地方版でもとりあげられている。また、「時のなかの時－とき」が第6回朝日舞台芸術賞グランプリを獲得したことも朝日新聞を中心に全国紙を含む複数紙で紹介されている。
- 「学芸事業」については、05年度（25件）に比べて掲載件数は少なくなっているが、表現教育事業やワークショップ、リーディング事業、Next Generation's Theater（NGT）などの事業が幅広く取り上げられている。
- これら163件の掲載記事について広告掲載料をベースに金額換算すると、約2億2,000万円という結果となった（図表4-4）。これは、自主事業／共催事業の件数と、一つ一つの掲載記事の大きさ（文字数）が増えているためである。主催／共催事業の掲載量が増えていることは、劇場側の積極的な事業展開と広報活動の成果として評価できよう。

図表4-4 新聞掲載記事の内容と金額換算（2003～2006年度）

	2003年度		2004年度		2005年度		2006年度	
	掲載件数	金額換算（千円）	掲載件数	金額換算（千円）	掲載件数	金額換算（千円）	掲載件数	金額換算（千円）
自主事業／共催事業	70	62,140	54	46,211	75	110,044	88	160,243
学芸事業	8	5,331	5	2,141	25	15,505	17	12,451
貸館事業	46	27,072	43	27,235	25	37,678	23	24,680
その他事業	56	114,683	61	101,577	34	26,622	35	22,741
計	180	209,226	163	177,164	159	189,849	163	220,115

注） 金額換算は、写真を含めた記事面積と各新聞社の広告掲載料に基づいて、計算・集計した。

第5章 事業評価の基本フレームに基づいた評価結果

最後に、初年度（2003年度）の調査研究で設定した事業評価の基本フレームに基づいて、03年度から06年度までの4ケ年の北九州芸術劇場の事業評価の結果を整理した。

1．事業評価の基本フレーム

初年度（03年度）調査で設定した評価の基本フレームは次の4つである。

- 劇場の計画目標に関する評価：北九州芸術劇場の事業の基本方針である「創る」「育つ」「観る」に基づき、これらの計画目標がどの程度達成されているか
- 劇場の運営状況に関する評価：観客や劇場利用者への各種サービス、安全管理や清掃・警備など、劇場の運営が適切に行われているかどうか
- 劇場の経営状況に関する評価：事業収支の面で十分な経営努力が行われているか、円滑な組織運営が行われているかどうか
- 劇場運営に伴う派生的効果に関する評価：経済的効果、パブリシティ効果など、劇場の運営に伴ってどのような効果がどの程度発生しているか

2．評価結果の概要

基本フレームの評価項目ごとの評価結果は、図表5-1に整理したとおりであるが、そのポイントを以下に記述した。

(1) 劇場の計画目標に関する評価

①3つのコンセプトー「創る」「育つ」「観る」ーに関する評価

ー「創る」

- 「創る」では、7事業61公演が行われた。「錦鯉」、「地獄八景・・浮世百景」、「冒険王07」は、北九州芸術劇場のプロデュース公演として全国展開し、北九州芸術劇場の発信力を高めるとともに、創造事業の公演数（05年度の1.4倍）、入場者数（2.9倍）を大きく伸ばした。また、05年度から継続して、「わたしの青い鳥」、「シアターラボ」、「リーディングセッション」、「ダンスラボ」など参加型・育成型の事業がコンスタントに実施された。
- 創造事業の入場率は平均で93%と高い。特に、「地獄八景・・浮世百景」東京公演（世田谷パブリックシアター）は、入場率が100%となっている。

ー「育つ」

- 「育つ」では、学校との連携の幅を広げ、表現教育推進事業で「実践講座（トライ！ドラマ）」、「先生レクチャー」などの講座が加わるとともに、「学校出前演劇ワークショップ」が05年度の4校から12校に拡大した。学校との連携が広がったことは、劇場事業と演劇に対する理解、そして子どもへの演劇の効果が培われている成果として評価できよう。
- また、「Next Generation's Theater（NGT）」、「わたしの青い鳥」、「ダンスラボ」などの参加型の創造事業も実施され、創造参加を加えた学芸事業の参加者数は6,758人と05年度（6,327人）を上回った。
- 04年度には、「育つ」という基本方針に対応する学芸事業について、アンケート調査、グループインタビューを実施したが、学芸事業に対する参加者の満足度は高い。また、「人間関係に広がりが生まれた」、「演劇やダンスに新たな興味がわいた」、「劇場が身近になり、足

を運ぶ回数が増えた」、「より多くの公演を鑑賞したいと思った」、「仕事や活動の幅、可能性が広がった」といった、鑑賞事業だけでは得られないような深い効果を指摘する声が多かった。これらは、表面には現れにくい、劇場運営にともなうアウトカムである。06年度に学芸事業の参加者数が増えたことは、こうした効果を実感する市民が増えたことであり、特に、学校との連携の拡大は、プレ事業からの取り組みの成果として評価できよう。

－「観る」

- 「観る」では、「創る」「育つ」の育成型事業と連携し、中・小劇場での特徴ある現代・小劇場演劇や話題性の高いダンス・現代舞踊などの公演事業が行われるとともに、大ホールでの話題性の高い商業演劇・ミュージカルの公演が増え、創造事業を含めた公演回数は130回（05年度の1.2倍）、入場者数は65,289人（1.6倍）と、05年度を大きく上回った。
- また、公演事業全体（34本）の入場率は平均93%と、05年度（82.4%）年度と比べて高い数字となっている。
- 観客調査の結果では、開館年度（03年度）から継続して「公演内容」への満足度の高さが顕著で（06年度の満足層の割合：97.1%、「たいへん満足」の割合：54.2%）、観客から高い評価を得ている。

－「創る」「育つ」「観る」の運営方針への支持

- 「創る」「育つ」「観る」の3つの運営方針については、開館の03年度から継続して観客の支持率は90%を超えている。05年度に実施した市民調査の結果でも、「創る」「育つ」「観る」いずれについても市民の支持率は80%を超えており、観客、市民いずれからも、運営方針への支持率は高い。「観る」、「育つ」については、市民から「ぜひやってほしい」との回答が50%を超えている。これら3つの運営方針は、当面堅持することが望まれる。

②計画目標の達成に関連した評価－市民や地域への波及効果

- 北九州芸術劇場の認知度や劇場への意見について、市民調査の結果をみると、北九州芸術劇場の認知度は84%と高い。また、北九州芸術劇場に関しては「これからの時代に必要な施設である」、「市の文化行政のシンボル」といった肯定的な意見が多いことは評価できる。一方、劇場事業や公演情報に関する情報発信については不満に思う市民が多く、いかに、広く一般市民を対象とした情報提供を行なっていくかは検討課題である。
- 北九州芸術劇場が開設された効果として、鑑賞機会や日常生活の中で芸術文化に触れる機会が増えたとする市民が多い。
- 北九州芸術劇場の来場者は、この4年間で延べ100万人を超えている。2007年7月1日現在の北九州市の人口（推計値）は約98万7,000人であり、この4年間で北九州市の人口規模の来場者があったことになる。
- 今後、北九州劇術劇場を地域になくてはならない施設として位置付けていくためには、5年後、10年後を見据えた長期的な事業の継続が必要であろう。

(2) 劇場の運営状況に関する評価

①観客サービスについて

- まず、観客サービスについて、開館年度（03年度）に満足度が70%未満であった「公演情報の入手のしやすさ」、「チケットの予約・購入のしやすさ」は、04年度、05年度と改善傾向が続き、06年度は、両項目とも約80%まで上昇した。満足度の改善は、開場から4年が経過し、観客が情報収集やチケット購入に慣れてきたことも要因であると考えられるが、劇場側のサービス向上への取り組みも大きいと言えよう。

- 開館年度（03年度）に改善の望まれる項目（満足率80%未満）であった「劇場ロビーにおける飲食・物販サービス」、「電話予約やチケットカウンターの応対」のうち、後者は04年度で満足層が9割を超えるまで改善され、05年度は約93%、06年度は約92%と高い水準を保っている。一方、前者は04年度（約78%）、05年度（約79%）と改善傾向が見られたものの、06年度は約77%で、横ばい状態となっている。
- 03年度から満足度の高かった「劇場係員の応対」は、高い満足度を保っており、06年度も約97%とほぼ100%近い観客が満足しており、「電話予約やチケットカウンターの応対」とともに、劇場の顧客応対は高い評価を受けており、今後も高い満足度の継続に向けた取り組みが望まれる。

②劇場使用者に向けたサービス、連携・協力について

- 06年度は、主に公演事業での劇場使用者のグループインタビュー（北九州・福岡グループ、首都圏・関西グループ）を実施した。グループインタビューでは、両グループともに、劇場の運営方針や事業への支援の声が高く、また期待も大きいことが明らかとなった。特に、劇団・カンパニー側の立場に立ち、作品づくりに積極的に関わる劇場スタッフの対応は、人間関係・信頼関係が作れる劇場であると評価が高い。これは、「創る」「育つ」「観る」という劇場コンセプトが劇場スタッフに浸透し、実践されていることの現われといえよう。
- また、北九州・福岡グループの若手劇団・カンパニーからは、北九州劇場ができた効果として、「劇団相互、あるいは北九州・福岡の連携が強まった」、「プロデュース事業等に関わることで役者や劇団のレベルアップになった」という意見とともに、北九州で演劇を行なうことに自信がついたという意見もあげられている。
- 首都圏・関西の劇団・カンパニーからは、公立劇場、舞台芸術を牽引していく役割を期待する声が高い。
- なお、劇場では、04年度から施設利用に関するアンケート調査を実施し、概ね満足度の高い回答を得ているが、回収数にばらつきがあることから、劇場利用者に対するサービスや専門的・技術的サービスの状況を評価できうる十分な調査結果が得られていない。次年度以降、既存の利用者調査の分析手法、補足調査の実施の検討等が必要である。

(3) 劇場の経営状況に関する評価

- 北九州芸術劇場の06年度の事業費は約4億3,000万円と、05年度に比べて1.5倍近くとなっている。これは、チケット収入が約2億6,000万円と約2.4倍に増えているためで、事業費全体の61.4%を占める。これは、劇場の営業努力の成果としても評価できよう。
- 劇場コンセプトを堅持しながら、積極的な公演事業（含む創造事業）を展開し、入場者率、収益性、劇場からの情報発信力（パブリシティ効果）を高めたことが、06年度事業の特徴といえよう。
- 組織運営については、評価調査は未実施の状態で、調査や評価の方法を含め、今後の検討課題である。

(4) 劇場運営に伴う派生的な効果

- 06年度は、劇場運営に伴う経済波及効果とともに、雇用効果を試算した。
- その結果、劇場の運営管理、主催事業の最終需要は約13.4億円、主催事業の観客の消費支出は約3.0億円、それらの経済波及効果は23.8億円である。また、データ収集の制約から参考値ではあるが、貸館事業に基づいた経済波及効果については、最終需要が約5.2～6.1億円、経済波及効果が約6.9～8.2億円である。

- 経済波及効果の誘発係数は、運営管理・主催事業で1.45、貸館を含めると1.42となっている。北九州芸術劇場の運営は、相応の経済波及効果をもたらしていることが明らかとなっている。
- 雇用効果については、就業者ベースで181～191人、雇用者ベースで151～162人という結果となっている。
- パブリシティ効果についてみると、北九州芸術劇場や劇場事業に関する記事件数は05年度を若干上回った。特に、自主事業／共催事業の掲載件数が大きく増加した。これは、プロデュース作品の全国展開、「時のなかの時ーとき」が第6回朝日舞台芸術賞グランプリを獲得したことなど話題性の高い事業が多かったこと、劇場事業全般への認知が広がってきていることを示すこととして評価できよう。
- 新聞掲載記事を広告宣伝費に金額換算すると、06年度は約2億2,000万円と、05年度を大きく上回る規模となった。これは、市の事業に対する補助金約1億円を大きく上回っており、北九州芸術劇場の事業や運営は高いパブリシティ効果を生み出していると言える。

3．今後の課題

本調査では、北九州芸術劇場の事業評価調査として、03年度から以下のような調査を行ってきた。

- 劇場運営基礎データの収集・分析（03年度～）
- 公演に来場した観客に対するアンケート調査（観客調査）の実施（03年度～）
- 学芸事業参加者へのアンケート調査、グループインタビュー（04年度）
- 専門家による座談会（開場から1年間の劇場運営の成果について）（04年度）
- 経済波及効果（04年度～）、パブリシティ効果の把握分析（03年度～）
- 市民調査（05年度　※（財）地域創造の調査研究事業の一環として実施）
- 劇場使用者へのグループインタビュー（06年度）

今後、幅広い視点から事業評価を行うためには、今後は次のような調査の実施も検討すべきであろう。

- 観客に対するグループインタビュー
- 貸館利用者に対する満足度調査（04年度から実施している施設利用に関するアンケート調査の補足調査の実施など）
- 安全管理や清掃・警備など、劇場運営の基礎的な環境整備の状況把握
- 組織の運営実態（内部スタッフへのインタビュー調査やディスカッションなど）

評価は評価自体が目的ではない。PDCA サイクル（Plan→Do→Check→Action）に沿って、事業や運営の問題点や課題を把握し、それらの改善策を検討して、より望ましい運営を行うことが、評価の本来的な目的である。また、評価の結果を市民に積極的に公開してアカウンタビリティを果たしていくことも、重要な要件となろう。

北九州芸術劇場は、2007年度で開館5年目を迎える。2007年度は、開館以降5年間の運営データ、アンケート調査やグループインタビュー調査の結果を改めて見直し、より有効な評価手法・評価指標の検討を行なうことも必要であろう。

図表5-1 事業評価の基本フレームに基づいた評価結果一覧

＊アンケート調査結果については、◎、○、△、×の4段階評価とした。　＊＊ 支持率、満足層の割合は、無回答を除いて算出した数値である。

評価軸・評価大項目	評価小項目・評価指標（例示）と調査結果・評価データ		評価結果・改善のポイント		事業評価に関する今後の課題
	基本目標	基本目標の達成度に関する調査結果			
1. 劇場の計画目標に対する評価	**①3つのコンセプトー［創る］［育つ］［観る］ーに関する評価**				
	［創る］ 北九州芸術劇場のオリジナル・プロデュースの演劇作品を創ることにより、“ものづくりの街”北九州市をアピールし地域の活性化を促していく。	［2003年度］ ● 3事業、35公演を実施。「ファウスト」は東京で、「大砲の家」は大阪で公演。 ［2004年度］ ● 4事業、15公演を実施。「ルル」は東京、松本で公演（公演が2005年4月以降であったため、実績は05年度に計上）。 ［2005年度］ ● 6事業、45公演を実施（うち北九州芸術劇場以外での公演数は26回）。「ダンスラボ」と「リーティングシアター」は新しくシリーズ化。 ● 「ルル」は東京、松本で、「IRON」は大阪、松本、福岡、熊本で公演。 ［2006年度］ ● 7事業、61公演を実施。 ● 「錦鯉」は大阪、東京、名古屋、松本で、「地獄八景‥浮世百景」は東京、大阪で公演。 ● 創造事業の入場者数は27,107人と大きく増加、平均入場率は93%。 ［2003→2004→2005→2006年度］　＊カッコ内の数字は、（03→04→05→06年度） ● 当該運営方針に対する観客の支持率（94.4%→93.5%→94.0%→93.9%）　○ 市民の支持率（81.4%）　◎（※05年度調査）	➔	● 2作品の全国展開で、公演数、入場者数が大きく増加。パブリシティにも効果。 ● “ものづくりの街”北九州のアピールや地域活性化については今後の長期的な課題。 ● 「創る」に関する観客および市民の支持率は高く、今後もこの基本方針の継続が望まれる。	➔	● 観客調査の継続。 ● （学芸調査、市民調査について）長期的な視点（5年後、10年後）での継続的な調査の検討、実施。 ● 定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
	［育つ］ アウトリーチなど、舞台芸術の手法を用いた人材育成・教育普及事業を行い、地域を育てながら地域とともに育つ劇場を目指す。	［2003年度］ ● 表現教育、戯曲講座、俳優養成講座、バックステージツアー、コンテンポラリーダンスワークショップ、学校出前演劇ワークショップなど、多様な事業を実施。 ［2004年度］ ● 参加者の講座やワークショップに対する総合満足層：97.5%、うち「たいへん満足」：56.1%　◎ ● 「たいへん満足」の割合が高い項目：講座・ワークショップの内容（62.6%）、講師（72.4%）、劇場係員の対応（63.4%）　◎ ● アウトカム評価：「人間関係に広がりが生まれた」（66.7%）、「演劇やダンスに新たな興味がわいた」（65.0%）、「劇場が身近になり、足を運ぶ回数が増えた」（56.9%）、「より多くの公演を鑑賞したいと思った」（50.4%）、「仕事や活動の幅、可能性が広がった」（43.1%）など。 ［2005年度］ ● 学校出前演劇ワークショップを4小学校で実施。また、新事業「Next Generation’s Theater（NGT）」がスタート、シリーズ化。アクティビティの回数は297回、参加者数は6,327人。 ［2006年度］ ● 「実践講座（トライ！ドラマ）」、「先生レクチャー」を加えて事業充実を図り、学校出前演劇ワークショップを12小学校で実施。 ● アクティビティの回数は291回、参加者数は6,758人。 ［2003→2004→2005→2006年度］ ● 当該運営方針に対する観客の支持率（93.1%→93.4%→93.3%→93.2%）　○ 市民の支持率（89.7%）　◎（※05年度調査）	➔	● 学校との連携が広がったことは、劇場事業と演劇に対する理解、そして子どもへの演劇の効果が培われている成果として評価。 ● 04年度に実施したアンケート調査では、学芸事業参加者の事業に対する満足度は極めて高く、グループインタビュー調査でも、参加者に大きなインパクトを与えていることが明確となった（アウトカム）。 ● 「育つ」に対する観客および市民の支持率は高く、今後もこの基本方針の継続が望まれる。	➔	

評価軸・評価大項目	評価小項目・評価指標（例示）と調査結果・評価データ	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
1．劇場の計画目標に対する評価	**［観る］** 舞台芸術の先進都市からエンターテイメント性や芸術性の高い作品を招き、市民に様々な公演を提供する。	［2003年度］ ●「阿国」、「ピーターパン」、「イッセー尾形のとまらない生活」、「レッツゴー忍法帖」、「リチャード三世」、「ユーリンタウン」など、幅広い公演を実施。 ●公演事業（創造事業も含む）の事業数：27事業、公演数：54回、公演入場者数：45,390人 ［2004年度］ ●「伝説の女優 Legends!」、「子午線の祀り」、「ロミオとジュリエット」、RSC「オセロー」、子供のためのシェイクスピア「ハムレット」、イッセー尾形の一人芝居、山海塾「ひびき」など、幅広い公演を実施。 ●公演事業（創造事業も含む）の事業数：35事業、公演数：85回、公演入場者数：37,095人 ［2005年度］ ●小劇場・現代演劇、ダンス・舞踊公演を中心に、商業演劇や歌舞伎公演など幅広い公演を実施。「アジアパフォーミングアーツフェスティバル」として、韓国との合同公演も実施。 ●公演事業（創造事業も含む）の事業数：38事業、公演数：107回、公演入場者数：40,047人 ●市民からみた劇場開設の効果（05年度調査）：「劇場・ホールで鑑賞する機会が増えた」（28.2%） ［2006年度］ ●中・小劇場での特徴ある現代・小劇場演劇や話題性の高いダンス・現代舞踊などの公演事業が行われるとともに、大ホールでの話題性の高い商業演劇・ミュージカルの公演が増加。 ●公演事業（創造事業も含む）の事業数：34事業、公演数：130回、公演入場者数：65,289人 ［2003→2004→2005→2006年度］ ●「公演内容」の満足層：観客調査 （95.6%→96.2%→97.0%→97.1%、「たいへん満足」の割合： 49.8%→53.0%→52.1%→54.2%） ◎ 市民調査（93.8%） ◎（※05年度調査） ●当該運営方針に対する観客の支持率（99.2%→99.2%→99.3%→98.7%） ◎ 市民の支持率（89.7%） ◎（※05年度調査）	➔ ●中・小劇場での現代・小劇場演劇や、ダンス・現代舞踊の公演とともに、大ホールでの話題性の高い商業演劇・ミュージカルなど、多様な事業を実施。 ●公演回数は130回（05年度の1.2倍）、入場者数は65,289人（1.6倍）と、05年度から大きく増加。 ●「観る」に対する観客および市民の支持率は極めて高いことから、今後もこの基本方針の継続が望まれる。 ●専門家へのインタビュー調査（04年度）でも概ね高評価。	➔ ●観客調査等の継続。 ●定量的評価指標、定性的評価指標の検討。

②計画目標の達成に関連した評価

［劇場の認知度や劇場に対する意識等］ 北九州芸術劇場の存在や事業は市民からどのように認知されているか。 また劇場や劇場事業が市民にどのような影響を与えたか。	［2005年度］ ●北九州芸術劇場の認知度や利用率： ●認知度：（83.7%） ◎ ●（知っている場合の）来場・利用率：（43.7%） ○ ●来場したことがない場合、今後の来場意向：（68.6%） ○ ●来場したことがある場合の総合的な満足度（77.9%） ○ ●北九州芸術劇場に関する意識： ●「これからの時代には必要な施設」（46.0%） ◎ ●「情報が限られており、どんなことをやっているのかわかりにくい」（44.3%） △ ●「北九州市の文化行政のシンボルあるいは中心となる施設」（34.9%） ◎ ●劇場ができた効果（アウトカム評価）： ●「生活の中で芸術文化に触れる機会が増えた」（21.6%） ○ ●「普段出会えない人に出会えるなど人間関係に広がりが生まれた」（13.1%） ○ ［2006年度］ ●北九州芸術劇場の利用者は、03～06年度の4年間で延べ100万人（北九州市の人口規模の来場者）。 ◎	➔ ●北九州芸術劇場への来場者が増えることは、劇場の認知度を高め、さらに劇場事業への理解者、支援者を増やすことにつながることとして評価。 ●市民調査の結果、北九州芸術劇場の認知度は高く、来場・利用率も44%。今後、さらに、来場意向のある人に劇場まで足を運んでもらうことが検討課題。 ●北九州芸術劇場に関して、肯定的な意見が多いことは高く評価。一方、市民が感じる情報不足に対応するため、劇場や劇場事業に関する情報をいかに広く一般市民に届けるかは検討課題。	➔ ●評価項目、評価指標等の検討。 ●長期的な視点（5年後、10年後）での継続的な調査の検討、実施。

	評価軸・評価大項目	評価小項目・評価指標（例示）と調査結果・評価データ	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
2. 劇場の運営状況に関する評価	**［観客サービス］** 劇場の観客に対して質の高いサービスが提供されているか。	［2003→2004→2005→2006年度］ • 広報・告知の方法と内容：「公演情報の入手しやすさ」の満足層（64.9%→73.3%→77.5%→78.9%）○（改善） • チケット販売のしくみ：「チケットの予約・購入のしやすさ」の満足層（53.1%→72.9%→79.2%→80.3%）　○（改善） • 客席案内等のフロントサービスの内容と質：「劇場係員の応対」の満足層（91.9%→97.3%→97.7%→96.5%）　◎ • 劇場スタッフの応対（電話やチケットカウンター）：「電話予約やチケットカウンターの応対」の満足層（79.8%→90.7%→92.6%→92.1%）　◎ • 劇場ロビーにおける飲食・物販サービスの内容と質：「劇場ロビーの飲食サービス」満足層（73.2%→77.6%→79.1%→77.0%）　△（横ばい）	• 03年度からの要改善項目（満足率70%未満）：「広報・告知の方法と内容」、「チケット販売のしくみ」に関する満足度は、この4年間で大きく向上。 • 改善の望まれる項目（満足率80%未満）：「劇場スタッフの応対」の満足度は大きく改善。「劇場ロビーにおける飲食・物販サービスの内容と質」はさらなる改善が望まれる。 • 03年度から満足度の高かった「フロントサービスの内容と質」は、ほぼ100%近い満足度を維持。	• 観客調査の継続。 • 安全管理、清掃、警備等の実施状況に関するデータ分析、ヒアリング調査等の実施。
	［劇場利用者サービス］ 劇団や市民団体など利用者に適切なサービスが提供されているか。	［2003年度］ • 貸館利用者の受付サービス／楽屋等バックヤードのサービス：未調査 ［2004、2005、2006年度］ • （貸館利用者調査） ［2006年度］劇場使用者を対象とするグループインタビュー • 劇場施設、舞台設備等は、高い評価。また、劇場の取組み姿勢、スタッフの対応、集客やチケット販売への対応についても、高い信頼感を得ている。 • 劇場ができた効果として、「福岡と北九州の連携ができるようになった」、「劇団相互の連携ができるようになった」、「役者、劇団が成長した」、「北九州で定期的に公演を行うようになった」など	• 貸館利用者調査は04年度から実施しているが、評価に十分な調査に至っていない。 • グループインタビュー結果では、ハード、ソフトともに高い評価。地元の若手劇団・カンパニーからは、劇場ができたことによる効果が具体的にあがっている。	• 利用者調査の継続。 • 幅広く利用者の満足度等を把握するための効果的な調査の実施手法の検討。
	［専門的・技術的サービス］ 劇場の専門的・技術的サービスの水準や提供状況は適切か。	［2003、2004、2005、2006年度］ • 舞台制作等に関する専門的なサービス／劇場設備のメンテナンス状況／劇場技術スタッフの対応：未調査 ［2004、2005、2006年度］ • （貸館利用者調査）	• 貸館利用者調査は実施したが、評価に十分な調査に至っていない。	• 利用者調査の継続とともに、補足調査の実施。 • 設備、機器類のメンテナンスの実施状況に関するヒアリング調査等の実施。
	［その他］ その他、劇場の事業や運営は適切に行われているか。	［2003、2004、2005、2006年度］ • 事業評価への取り組み：事業評価調査を実施 • アカウンタビリティへの取り組み：未調査		
3. 経営状況に関する評価	**［事業収支］** 事業収支の面で十分な経営努力が行われているか。	［2003→2004→2005→2006年度］ • 公演事業（創造・公演・提携・演劇祭）の平均入場率（88.2%→88.7%→82.4%→92.7%） うち95%を上回った公演は13本。 • 事業（チケット）収入（2億1,539万円→1億4,543万円→1億1,006千円→2億6,390万円） • 外部資金の獲得（7,000万円/事業費の17.7%→6,700万円/事業費の19.9%→6,500万円/事業費の22.0%→6,000万円/事業費の13.9%） ［2003、2004、2005、2006年度］ • 経費削減に向けた取り組み：未調査	• 平均入場率は93%と05年度から大きく増加。事業（チケット）収入も約2.4倍。営業努力を大きく評価。	• 継続したデータ収集・分析の実施。 • 詳細調査の必要性の検討、実施。
	［組織運営］ 適切なスタッフ体制や効率的な組織運営が行われているか。	［2003、2004、2005、2006年度］ • 組織体制の適切さ：未調査 • 業務内容・ボリュームの適切さ：未調査 • 意志決定の円滑さ：未調査	• 未調査のため評価保留	• 運営スタッフ等に対するインタビュー調査、業務実態に関する調査などの実施。 • 評価項目、評価指標等の検討。

評価軸・評価大項目		評価小項目・評価指標（例示）と調査結果・評価データ	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
	［その他］ その他、経営面で適切な対応が行われているか。	• 効率的な運営に向けた取り組み：未調査	• 未調査のため評価保留	• 運営スタッフ等に対するインタビュー調査、業務実態に関する調査などの実施。 • 評価項目、評価指標等の検討。
4. 劇場運営に伴う派生的効果に対する評価	**［経済的効果］** 劇場運営によってどのような経済的な効果が生み出されたか。	［2003年度］ • 経済波及効果：劇場の管理運営、公演事業等の最終需要は約12億円、経済波及効果は23億円程度（参考値） • 観客の観劇前後の消費支出額は約1.5億円 ［2004年度］ • 運営管理、主催事業、主催事業の観客の消費支出に伴う合計最終需要は約14.3億円、経済波及効果は約20.6億円。誘発係数は1.44。 • 貸館事業、貸館観客の消費支出による最終需要は約8.8～10.9億円、経済波及効果は約11.7～14.6億円（参考値） ［2005年度］ • 運営管理、主催事業、主催事業の観客の消費支出に伴う合計最終需要は約14.0億円、経済波及効果は約20.1億円。誘発係数は1.44。 • 貸館事業、貸館観客の消費支出による最終需要は約6.8～8.0億円、経済波及効果は約9.3～10.6億円（参考値） • 雇用効果（北九州市内）：就業者ベース　190～207人、雇用者ベース　161～173人 ［2006年度］ • 運営管理、主催事業、主催事業の観客の消費支出に伴う合計最終需要は約16.4億円、経済波及効果は約23.8億円。誘発係数は1.45。 • 貸館事業、貸館観客の消費支出による最終需要は約5.2～6.1億円、経済波及効果は約6.9～8.2億円（参考値） • 雇用効果（北九州市内）：就業者ベース　181～191人、雇用者ベース　151～162人	• 劇場の事業規模に応じた経済効果が発生。 • 観劇に伴う観客の消費活動も活発。	• 継続調査の実施、精度アップ（劇場管理運営費、事業費の振り分け、観客消費支出の精度アップ）。 • 所得増、雇用増、税収増の試算。 • 貸館に伴う経済波及効果の精度アップ（貸館事業者、貸館事業観客へのアンケート調査）。
	［パブリシティ効果］ 劇場事業によって、北九州市の広報面でどのような効果があったか。	［2003年度］ • 新聞掲載件数：378件（全国紙掲載含む）、うち劇場事業関連記事（公演紹介・取材記事、劇評、劇場イベント紹介など）：180件 • パブリシティ効果の規模：約2億1,000万円（180件の新聞記事のみ） ［2004年度］ • 新聞掲載件数：327件（全国紙掲載含む）、うち劇場事業関連記事：163件 • パブリシティ効果の規模：約1億7,700万円（163件の新聞記事のみ） ［2005年度］ • 新聞掲載件数：331件（全国紙掲載含む）、うち劇場事業関連記事：159件 • 04年度と比較し、自主事業／共催事業、学芸事業関連の記事数が増加。 • パブリシティ効果の規模：約1億8,900万円（159件の新聞記事のみ） ［2006年度］ • 新聞掲載件数：331件（全国紙掲載含む）、うち劇場事業関連記事：　163件 • 5年度と比較し、自主事業／共催事業に関する記事数が大きく増加。 • パブリシティ効果の規模：約2億2,000万円（163件の新聞記事のみ）	• 新聞をはじめとした各種媒体への露出度は高く、特に06年度は、自主事業／共催事業に関する掲載記事数が増加 • 劇場側の積極的な事業展開と情報発信の成果として評価。 • パブリシティ効果は、市の事業補助金（06年度：約1億円）の2倍以上の規模。	• 継続調査の実施。
	［その他の効果］ 劇場運営に伴い、その他、どのような派生的効果があったか。			• その他の派生効果の洗い出し、評価項目、評価指標等の検討。